

# 平成28年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-8号)

農林総合研究センター  
平成28年7月19日調査

## 気象経過

- 7月上旬の平均気温は、平年に比べ金沢、輪島ともに高く（金沢：+2.1℃、輪島：+1.7℃）となった。日照時間は、平年に比べ金沢は並、輪島は少なく（金沢：108%、輪島：48%）、降水量は平年に比べ金沢、輪島ともに並（金沢：74%、輪島：97%）となった。
- 7月第3半旬の平均気温は、平年に比べ金沢は並、輪島はかなり高く（金沢：+0.6℃、輪島：+0.9℃）なった。日照時間は平年に比べ金沢は並、輪島は高く（金沢：121%、輪島：125%）、降水量は、平年に比べ金沢、輪島でともに並（金沢：87%、輪島：81%）となった。
- 7月14日に新潟地方気象台から発表された向こう1か月の予報では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
向こう1か月の日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並の確率50%です。

## 生育概況等

### 【生育状況】

#### 1. 出穂期

ゆめみづほの出穂が加賀地域、能登地域ともに見られ、近年に比べ加賀地域で4～7日程度、能登地域では8日程度早まった。能登ひかりは近年に比べ3～7日程度早まる見込みである。

### 【出穂期】

ゆめみづほ 加賀： 7月11日～18日（近年より4～7日程度早い）  
能登： 7月16日頃（近年より8日程度早い）  
能登ひかり 能登： 7月18～20日頃（近年より3～7日程度早い）

コシヒカリの出穂期は、加賀地域で平年に比べ4～5日程度、能登地域は平年に比べ4～6日程度早まる見込みである。

### 【予想出穂期】

コシヒカリ 加賀： 7月22日～27日（平年より4～5日程度早い）  
能登： 7月25日～30日（平年より4～6日程度早い）

#### 2. 草丈

コシヒカリで平年比107%（加賀地域107%、能登地域108%）とやや長い。  
ゆめみづほは、近年比111%（加賀地域110%、能登地域114%）と長い。

#### 3. m<sup>2</sup>あたり茎数

コシヒカリで平年比98%（加賀地域100%、能登地域96%）と並、ゆめみづほで近年比105%（加賀地域105%、能登地域103%）と並である。

7月19日

### m<sup>2</sup>あたり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	419本	(平年比 98%	前年比 95%)	22.4本/株
	加賀	419本	(平年比 100%	前年比 95%)	22.9本/株
	能登	421本	(平年比 96%	前年比 95%)	21.6本/株
ゆめみづほ	県平均	515本	(近年比 105%	前年比 103%)	28.7本/株
	加賀	520本	(近年比 105%	前年比 100%)	29.2本/株
	能登	502本	(近年比 103%	前年比 109%)	27.4本/株

#### 4. 葉色

コシヒカリの葉色は、加賀地域、能登地域とも平年並である。

### 【病害虫の発生状況】

1. 雑草地におけるカメムシ類の発生は平年に比べ多く、7月14日付で病害虫発生予察注意報第2号（斑点米カメムシ類の多発に注意）が出された。
2. コブノメイガの食害が確認されている。
3. 紋枯病の発生が散見されている。
4. 葉いもちの発生が各地で散見されている。

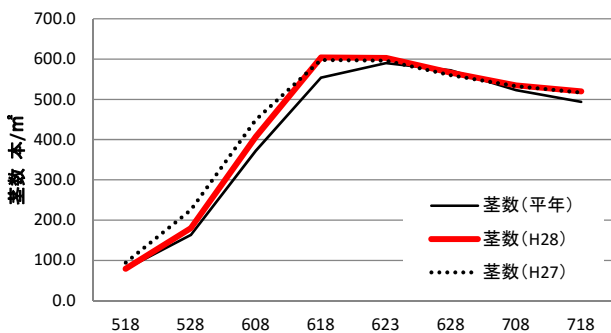
### 当面の対策

1. 早生は出穂期を迎えており、出穂後は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）による飽水管理を刈り取り7日前まで行う。特に、登熟初中期（出穂後6～20日頃）に高温と水分不足が重なると、白未熟粒・胴割粒の発生を助長するので通水を徹底する。なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
2. 用水をため池に依存している地域等では、計画的な用水利用に努める。
3. コシヒカリの2回目の穂肥は、高温条件下での稲体活力維持のため、地域の基準量を目安に適切に施用する。今後、天候次第で出穂が平年よりさらに早まる可能性があるため、ほ場をよく観察し、遅くとも葉耳間長+2～3cm（出穂7日前）までに終了し、適期を逸しないように注意する。
4. 斑点米の発生を防止するため、7月中に出穂する稲は、出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。また、8月以降に出穂する稲では、出穂7～10日後の防除を徹底する。  
なお、防除後もカメムシの本田侵入が確認された場合は、さらに追加防除を実施する。
5. 出穂後の畦畔除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は本田防除の直前に行なう。
6. 穂いもちの発生を防止するため、葉いもち発生の有無に関わらず出穂前の基幹防除を徹底する。なお、葉いもちの発生を認めたら直ちに周辺ほ場を含めて防除を実施する。

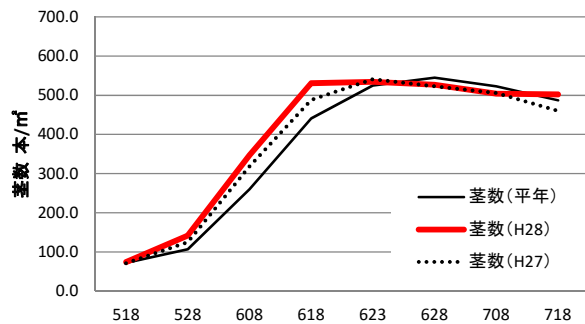
### <参考：地域別茎数の推移>

- ・ゆめみづほ、コシヒカリともに現在の茎数は平年及び前年並に推移していることから、穂数は平年および前年並に確保される見込と考えられる。

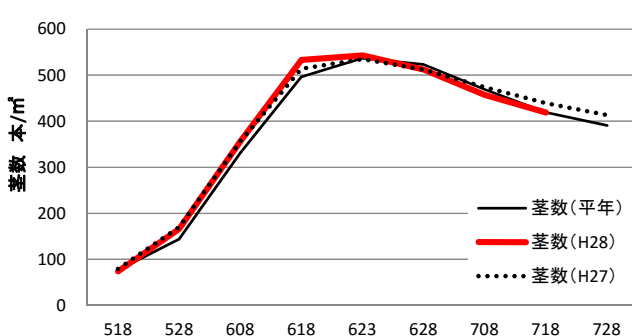
茎数の推移(ゆめみづほ:加賀地域)



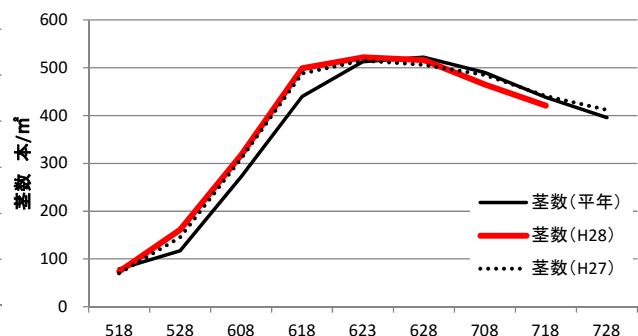
茎数の推移(ゆめみづほ:能登地域)



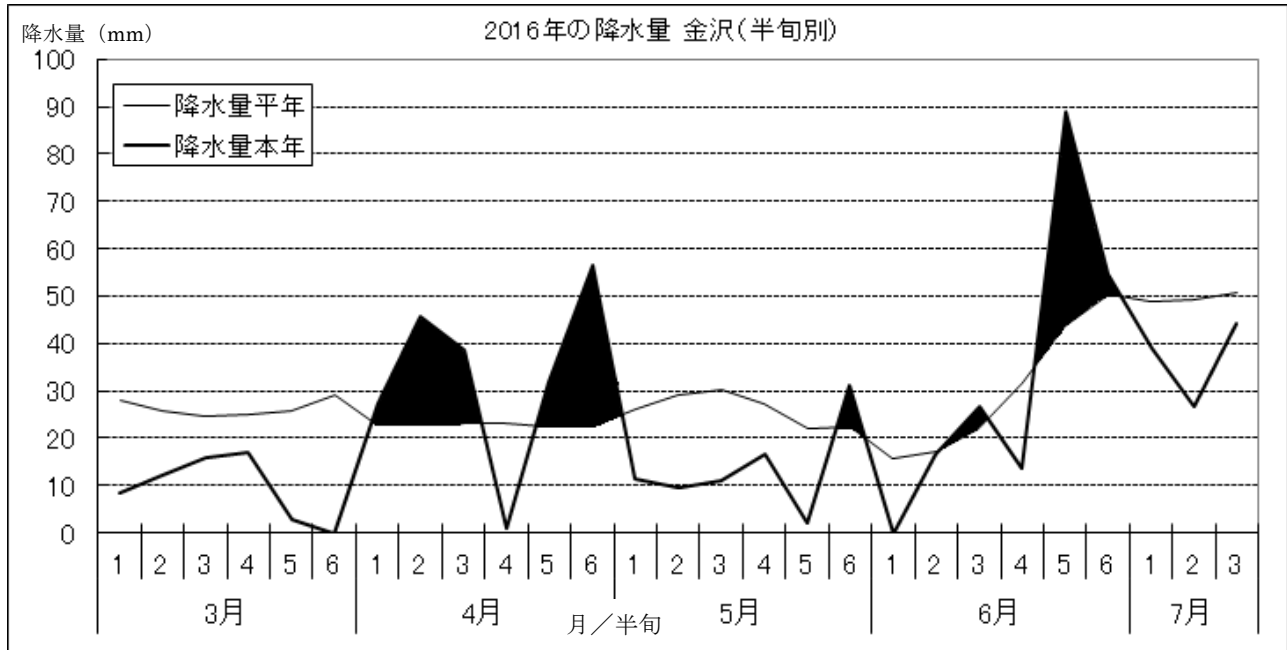
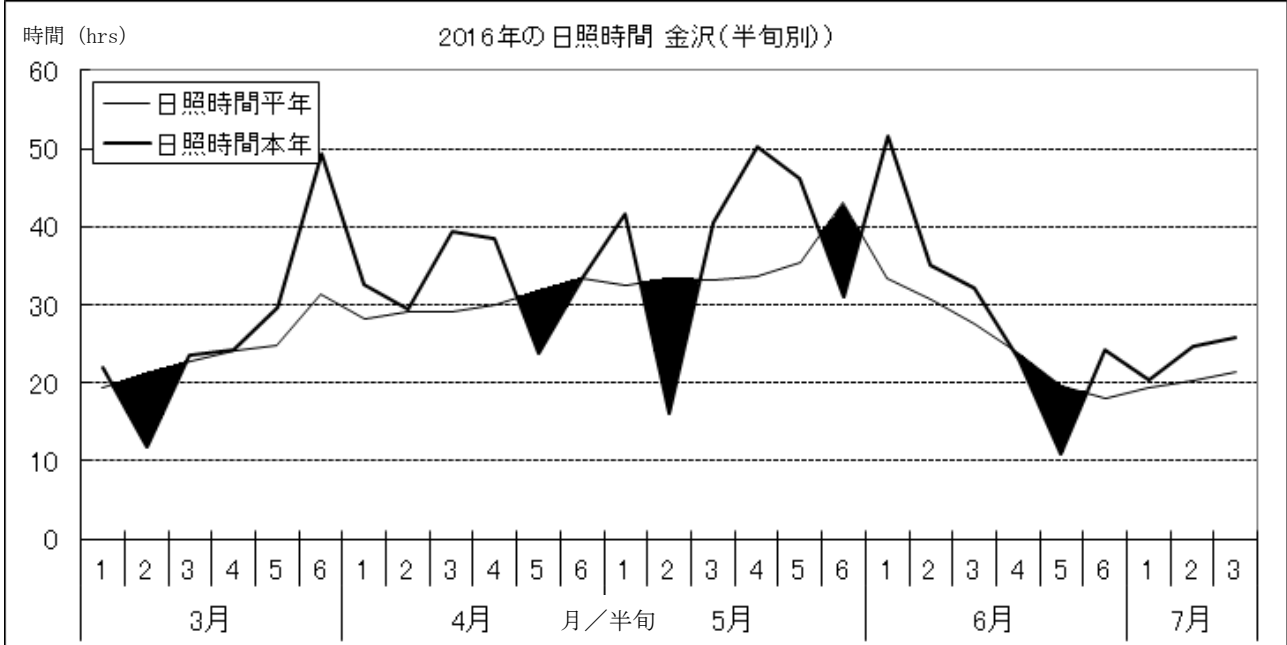
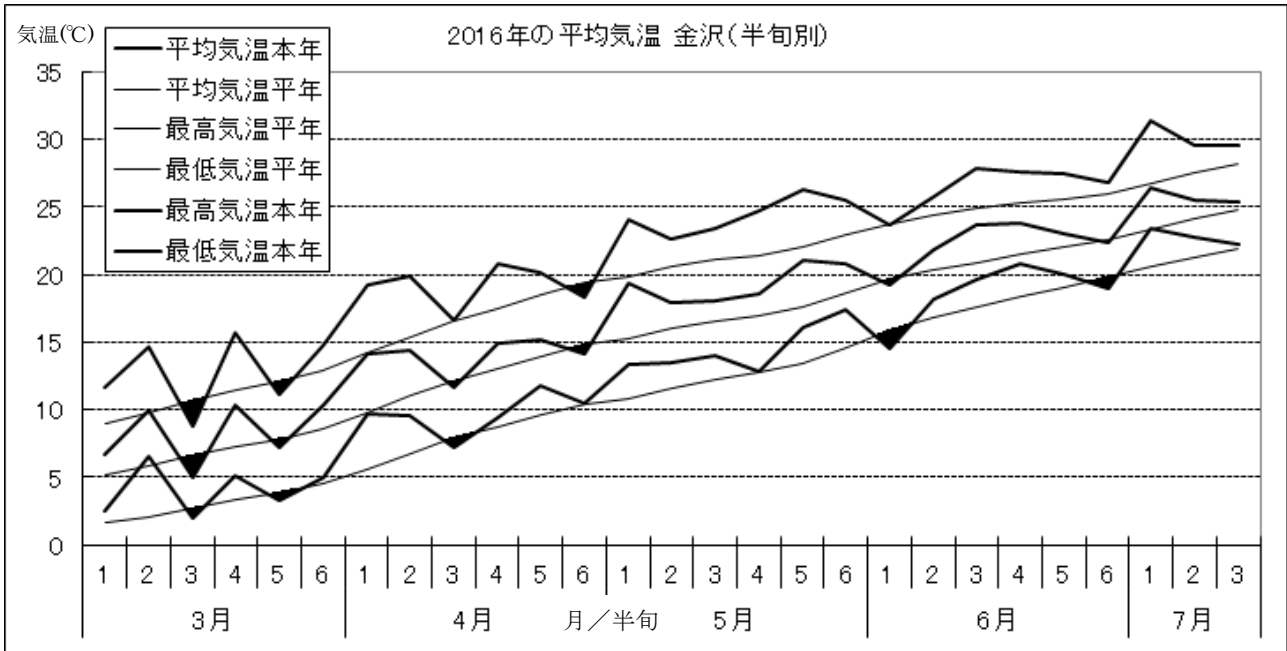
茎数の推移(コシヒカリ:加賀地域)



茎数の推移(コシヒカリ:能登地域)

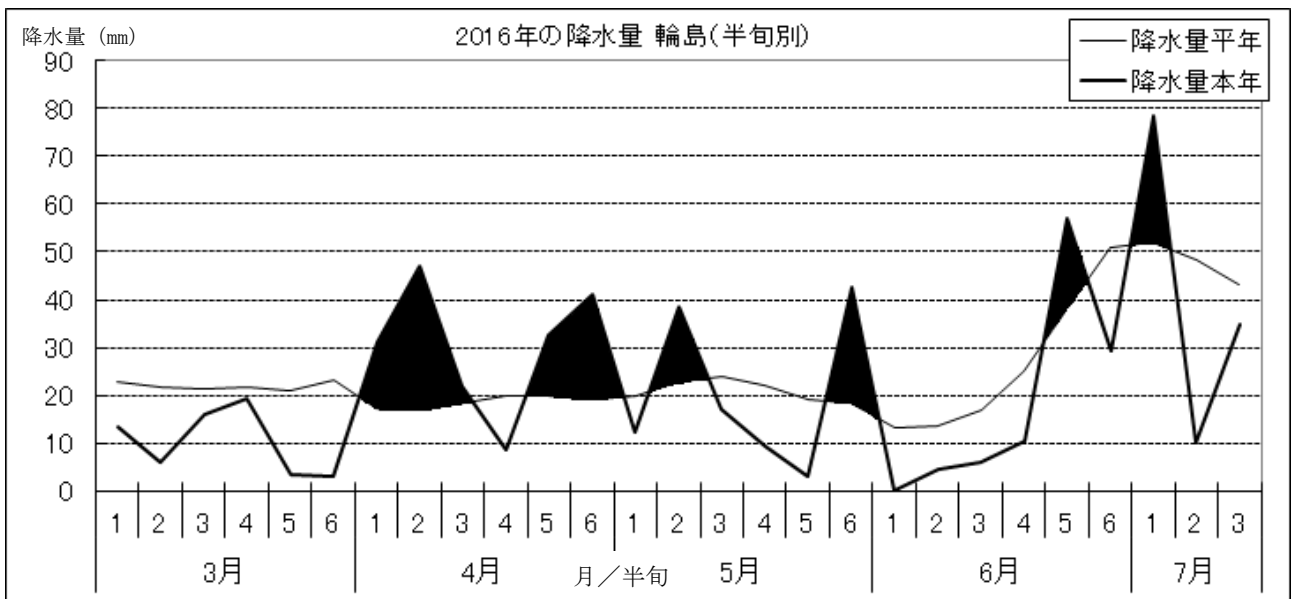
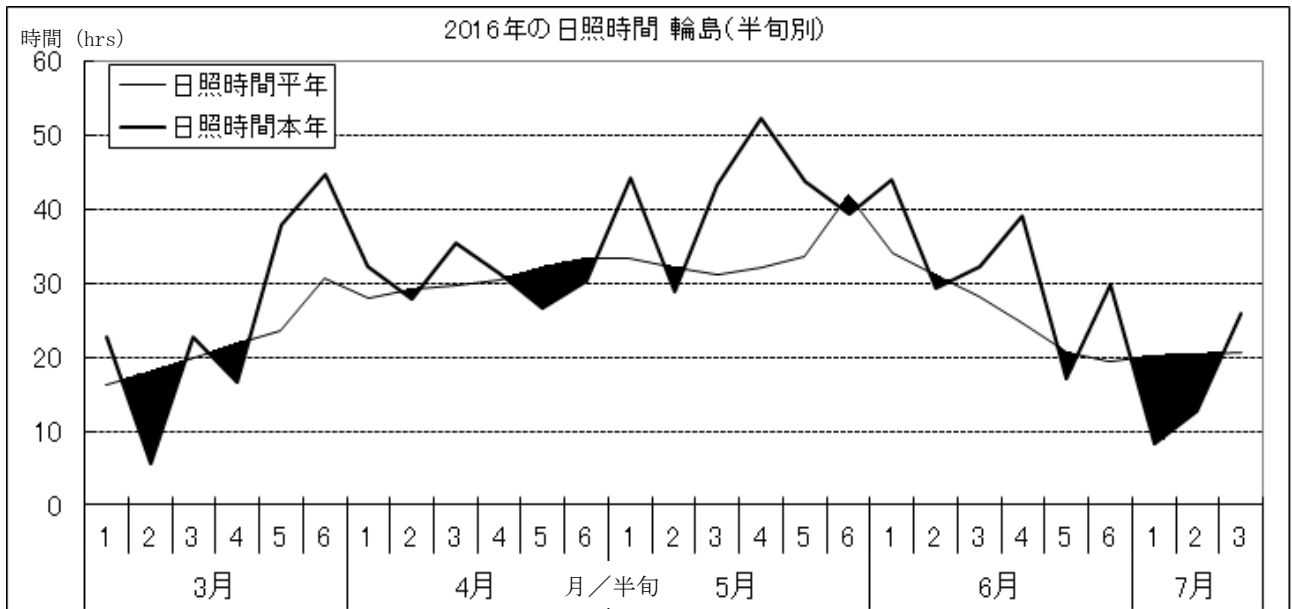
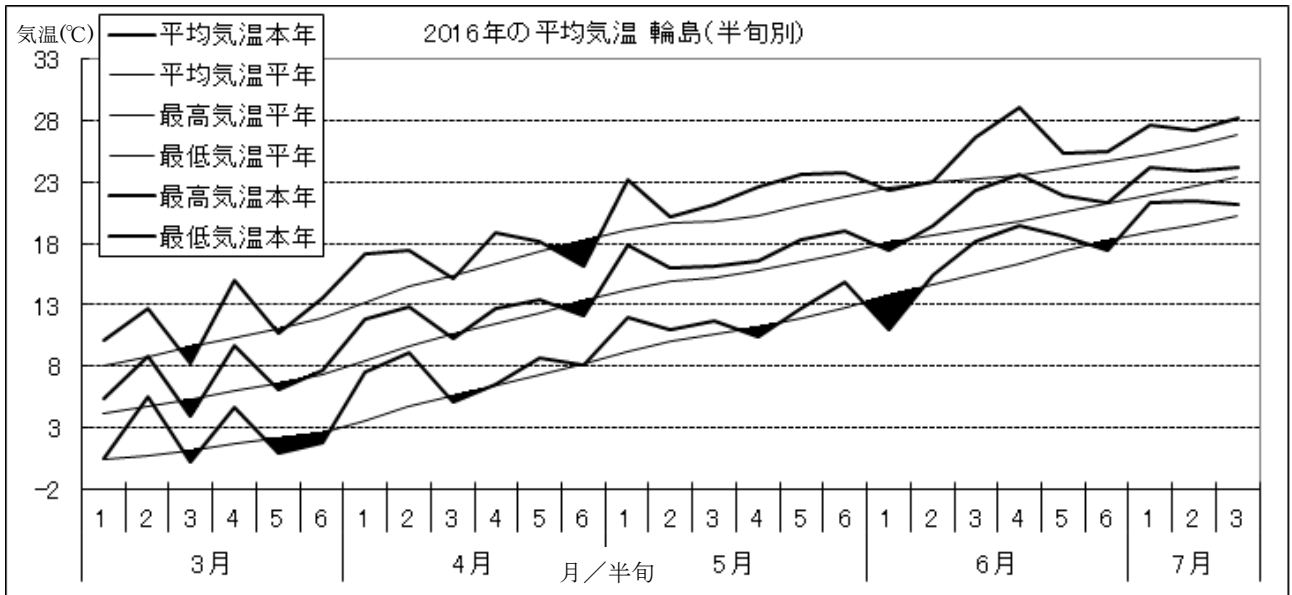


# 気象経過イメージ (金沢气象台)



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

# 気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い